



学校だより



NO.6
東京女学館小学校
令和8年9月17日

言葉の力

小学校長 盛永 裕一

夏休みが終わり、学校に子どもたちの姿が戻ってきました。少したくましい顔つきになった子、まだ少し眠たそうな子。表情は様々ですが、それぞれに夏休みを過ごしたことを思います。

今年の夏は、自然災害の脅威を感じた日々でした。七月二十八日には震度七の地震が熊本県を襲いました。十年前の二度の震度七の地震から、やっと復興しつつある場所です。また同じ規模の地震に見舞われたことは、自然はあまりにも理不尽で、容赦ないことを思い知らされました。

このような状況の中、八月五日から全国高校野球選手権が開催されました。熊本代表の有明の活躍は、逆境にも負けない不屈の精神を与えてくれました。また、開会式で、八王子実践の矢沢陸磨主将の選手宣誓の言葉は胸を打つものでした。

人生には、幾多の困難が待ち受けています。人々は、明日へ踏み出そうとすると歩みを進める度に、自然は何度も大きな試練を与えてきます。しかし、困難は下を向く要因ではなく、前を向き、仲間とともに支え合い、道を切り開く大きな原動力である。私はそう信じています。

さらに、今、野球ができることは当たり前ではない。だからこそ、高校球児はいい顔をして野球をしよう。いい顔の概念は状況によって変わる。戦いに身を投じている時の緊張した顔、勝負に敗れ涙をグッとこらえる顔、感謝の気持ちにあふれた顔。いい顔で日々を過ごすことは、周りの方々に希望を与えます。このように結んでいます。何とも力強く、深い言葉だと言った。言葉の力を感ずります。

八月中旬、千葉県を中心に集中豪雨が襲いました。二十四時間の雨量は、八月一か月に降る雨の量の三倍にあたる量だったそうです。車が動かなくなり閉じ込められてしまった人、歩いていて鉄砲水に足元をすくわれた人。ここでも、自然災害が猛威を振るいました。

これら夏の自然災害により、亡くなられた方のご冥福を祈るとともに、一日も早い復興を切に願っています。いい顔をして前に進むことができる日が来ることを全力で応援したいと思っています。

八月六日は広島で、九日は長崎で、被爆から八十年となる原爆の日を迎えました。広島市長 松井一実さんは、「若い世代の皆さんに提案があります。価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することが出来ます。」と核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会を創り上げるための行動を起こす必要があることを、力強い言葉で訴えました。さらに、「子ども代表 平和への誓い」では、六年生の子ども二人が、次のような言葉を残しています。

私たちに、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。目をそらさず、知ろうとすること。悲しい現実でも向き合うこと。そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。私たちに、広島の子どもとして行動する責任があります。相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを自分なりの方法で表現すること。一人一人の行動が、平和への一歩を踏み出します。かけがえのない大切なものを、確かな希望を、未来へ届けるために。

この夏休み、高校球児の言葉に「力強く前に進む勇氣」を、広島の小学生の言葉に「平和への一歩を踏み出す覚悟」を改めて知らされました。言葉の力を感ずった夏でした。

タスマニア海外研修 (7月26日～8月5日)

国際室長

6年生20名がオーストラリア・タスマニアでの海外研修に参加し、現地の名門女子校ファーンズスクールとの交流を行いました。登校初日、子どもたちは緊張した様子でしたが、全校児童の前で堂々と自己紹介をし、その後、女学館について、日本についてなどを、英語でわかりやすく発表することができました。会場には大きな拍手が広がり、女学館の子どもたちは達成感あふれる表情を見せていました。ビーチに一緒に行ったり、クッキーと一緒に作ったり、ファーンの子どもたちと活動する中で、緊張していた女学館生も、いつの間にか自然な笑顔で和気あいあいと活動していました。Japanese dayには、着付け、日本舞踊、茶道、書道、日本の遊びを行いました。英語、ジェスチャー、表情など、自分も持っているすべての力を使い、コミュニケーションをとる様子は、日本文化をファーンのお友だちに伝えたいという気持ちが表れていました。週末の金曜日からは、3泊のホームステイに出かけ、英語漬けの時間を過ごすと同時に、オーストラリアのあたたかい家族の時間をたっぷりと味わってきました。週明けに登校する子どもたちの表情はとても明るく誇らしげで、素敵な時間を過ごしてきたということが伝わってきました。そして最後のお別れでは涙を流しながら、ファーンのお友だちと何度も抱き合っていました。11日間親元を離れ、言葉も文化も違う場所で過ごした子どもたちが得たものは、単に「英語力」という一言ではすませることができません。「伝えたい」「理解したい」という気持ちの大切さを学び、自分の力で言葉や文化の壁を乗り越えて友情を育んだことは、大きな自信になったはずです。そして、この友情がこれからも続くことを心から願っています。

参加児童の感想より (一部抜粋)

6B 児童

ホームステイでは、ホストファミリーが温かく迎えてくれました。一緒に食事をしたり、会話をしたりする中で、言葉が完璧ではなくても、笑顔とジェスチャーで気持ちは伝わることを学びました。今回の研修を通して、英語を話す楽しさや、自分から行動することの大切さを学びました。最初はとても不安もありましたが、勇気を出して挑戦したことで、たくさんの思い出と自信を得ることができました。



夏季校内クラブ活動

総括部長

5、6年生が夏季校内クラブ活動を行いました。学年の枠を超えて普段のクラブ活動ではできない様々な体験をし、充実した時間を過ごしました。各クラブ、仲間たちと親睦を深めながら技能も高めることができたと思います。様々な場面で、5、6年生の枠を超えて助け合い協力する姿は大変頼もしかったです。これからも学校を支えていく頼りになる存在として活躍してくれるでしょう。



FUJI イングリッシュキャンプ (7月26日～28日)

国際室 担当教諭

7月26日～28日の2泊3日、山梨県の「Fuji Premium Resort」にてEnglish Campを行い、5・6年生64名が参加しました。キャンプでは、グループごとにネイティブティーチャーとともに、英語を使った様々な活動に取り組みしました。

「チャットルーム」では、ネイティブティーチャーと一対一で会話を楽しみました。「English World」では、図書館や病院、映画館、ホテル、ショップなど様々な場面で、店員役と客役を交代しながら実際の生活を想定した英会話に挑戦しました。

最終日には、「赤ずきん」「3匹のこぶた」「白雪姫」「シンデレラ」をもとに、グループごとに工夫を凝らした英語劇を発表しました。仲間と協力し、表情や動きも交えながら、生き生きと表現する姿が見られました。

お別れのセレモニーでは、ネイティブティーチャーの名前にちなんだ漢字を色紙に書き、感謝を込めてプレゼントしました。

3日間を通して、子どもたちは積極的に英語を使い、「伝わる」喜びを味わいました。この経験が、外国の方々と進んでコミュニケーションをとる自信につながることを願っています。

参加児童の感想より

最初は英語に苦手意識がありましたが、英語ネイティブの先生方と話すうちに少しずつ耳が慣れ、聞き取れる単語が増えていきました。いろいろな単語やその意味を覚えることができ、英語の楽しさを実感しました。もっと勉強してみたいと思える素晴らしい機会になりました。

6A 児童

私は5年生の時にも参加したため、今回が2回目のイングリッシュキャンプでした。5年生の頃はネイティブティーチャーの話していることが本当に何も分かりませんでしたが、6年生になった今年は少しずつ理解できるようになり、自分の上達を実感できました。とても楽しいイングリッシュキャンプになりました。

6B 児童



プール開放（7月27日～31日）体育科 教諭
7月27日（月）から31日（金）でプール開放を実施しました。今年度もリボンの会代表者の皆様には受付のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。
例年よりも1週間遅い開催となりましたが、実施した4日間で延べ440名の児童が参加し、元気いっぱい活動を楽しみました。水深の異なるプールで、児童は決められたエリアや約束をしっかりと守り、友達と安全に水に親しむことができました。
水中での宝探しやビーチボールで無邪気に遊ぶ姿はもちろん、もぐる練習やバタ足、泳法の習得に熱心に取り組む姿も印象的でした。この夏の経験を糧に、2学期の水泳実習でも子どもたちが伸び伸びと挑戦してくれることを期待しています。



避難訓練（9月2日）生活指導部長
防災週間中の9月2日（水）に本校でも避難訓練を行いました。今回の避難訓練は全学年予告なしでした。2時間目の授業中、9時35分に「地震が起きました」と緊急放送が流れました。急な出来事にも関わらず、児童は手をとめ、放送に耳を傾けました。教室にいた児童は机の下にもぐり、プールの授業中だった児童はプールサイドにাগり、すぐに自分の身を守る行動をとりました。その後、授業の担当教諭が安全な場所でクラス全員の安否や人数を確認し、タブレットを使って一斉に報告をしました。本部（職員室）ですぐに全学年の安否報告を共有し、訓練を終えました。全学年の児童の安全をいち早く確認し、共有する新しい試みでした。本校では教職員がモバイル（校内用携帯電話）やタブレットを常にもち、いつでも児童の安全な学校生活の対応ができる体制を整えています。
猛暑、地震、台風、集中豪雨…日本各地で様々な自然災害が起きています。ご家庭でもいざという時の備えについてお子様とお話し合いください。



入試説明会・授業公開
9月6日（日）に、受験生保護者対象のオンライン入試説明会を実施しました。お集まりくださった800名以上の皆様に、事前に寄せられた質問への回答も盛り込みながら東京女学館小学校の教育の特色や入学試験の出願方法などをお伝えしました。
10日（木）の授業公開では、500名以上の方が、12学級の各教科やすずかけ（お箏）の授業を参観されました。入試という節目を前に、本校の佇まい、先生方と子どもたちが学び合う姿などを確かめる真剣な眼差しに、改めて身の引き締まる思いがいたしました。心も身体も大きく健やかに育つ小学校の6年間という大切な日々をお預かりする、その責任の重さを深く胸に刻んでおります。授業公開の舞台裏では、リボンの会代表者のお母様方が、受付や誘導、ご案内などを引き受け、細やかなお心遣いで来校される方々を迎えてくださいました。いつも本校の教育を温かく支えてくださる保護者の皆様へ改めて深く感謝申し上げます。
小学校 教頭 下田 栄子



小中高合同学内研修会（8月31日）研究部長
本校では、12年間の学びと生活をより充実したものにするため、毎年8月末に小中高合同の学内研修会を実施しています。この研修は、校種を超えた教員同士の親交を深めるとともに、一貫教育校としての指導体制を整える大切な機会となっています。今年度は聖心女子大学教育学科から齊藤萌木先生をお招きし、「12年間一貫教育の深化と教員連携の在り方」をテーマにご講演いただきました。続くグループ討論では「育てたい子ども像」を中心に熱心な意見交換をしました。本校の教育目標を再確認しながら、児童・生徒の成長段階に応じた具体的な課題やアプローチ方法について深く話し合いました。12年間を通じて子どもたちの育ちをどのように支えていくか、教員が一丸となって展望を共有できた、有意義で実りある一日となりました。

日私小連全国教員夏季研修会（8月17日～19日）研究部 担当教諭
8月17日から19日の3日間、神戸を会場に全国の私立小学校教員が集まり、夏季研修会が開催されました。本校からも7名の先生方が参加しました。研修では、各校の実践発表や授業研究を通して、子どもたちの学びをどのように支えていくかについて考えを深めました。また、参加者同士で意見を交換したり、神戸ならではの施設を見学したりする中で、普段の校内研修とは違った視点から多くの刺激を受ける機会となりました。学校や地域によって、それぞれ異なる建学の精神や教育の特色をもつ私立学校。その先生方が一堂に会し、互いの実践や考えに触れることで、新たな気づきや学びが生まれます。今回の研修で得たことを今後の授業や教育活動に生かし、子どもたちの学びに還元していきたいと思ひます。

9月の生活目標：忘れものをしないようにする

夏休みが終わり、新学期を迎えました。学校生活において、持ち物をしっかり準備をし、環境を整えることはとても大切なことです。学習に集中でき、良い影響をもたらします。学校では連絡帳や休み時間の活用など、忘れ物をしない工夫をくり返し指導しています。翌日の時間割を見ながら学校生活を思い描いて支度ができるとういです。ご家庭でもお子様が意欲的に学校生活に取り組めるこの時期に、整理整頓や早めの準備など、声をかけていただきますようお願い申し上げます。

身だしなみのよい子（児童手帳P.12～13）
・**髪型** … 前髪の長さ、二つ結び、三つ編みのきまりを守りましょう。ゴムの色は黒色のみです。
・**服装** … スカートの丈は、ひざがかくれる長さにします。靴下は三つ折りにします。
・**運動着** … 清潔なものを用意します。下着の裾をズボンの中に入れ、えりを整えましょう。

学校の持ち物（児童手帳P.16～17）（保護者のしおりP.9）
・**学習に必要なものは持ってきてません。**
学用品（鉛筆、鉛筆キャップ、定規、下敷き等）は基本的に無地のものを使用します。リボンの会の製品は使用してもよいです。
・**かばん（赤いかばん、ランドセル）** につけるキーホルダーは目印用に地味なものです。ぬいぐるみや遊べるおもちゃのキーホルダー、大きな飾りのものは学校生活にふさわしくありません。登下校での危険防止のため、かばんの内側に入れます。赤いかばんとランドセル以外のバッグや定期券ケース等にはキーホルダーをつけません。
・**通学時の手さげかばんは、いつも赤いかばんを使用します。** 荷物が多い時はトートバッグも使用してよいです。



「行事予定」は非公開とさせていただきます。